

9月第3週の礼拝説教

■日 時：2022年9月18日（日）10：30－11：30 聖霊降臨節 第16主日

■説 教：保科けい子 牧師

■説教題：「全能の神」

■聖 書：マルコによる福音書第10章27節（新約p82）

■讃美歌：6「つくり主をさんびします」532「やすかれわがころよ、」

先週一週間、正確には先々週の9月8日（木）の夕方から、気づくと口ずさんでいる讃美歌がありました。以前に、教会学校の礼拝でよく歌ったことのあるこどもさんびかですが、私たちが今、主日礼拝で用いているこの「讃美歌21」にも490番として収録されています。「かみさまに 感謝しましょう、ハレルヤ、ハレルヤ、ハレルヤ。かみさまはよいものをくださった、ハレルヤ、ハレルヤ、ハレルヤ。」という短い歌詞のものです。そして同時にある言葉を思い出していました。それは、50年以上も前に教会に行き出して間もなくのころ、どなたかの証をうかがう機会があり、その中で引用されていた聖書の言葉の一部でした。もちろん当時は口語訳聖書が用いられていたのですが、私は「あらゆる良い贈り物、あらゆる賜物は、上から与えられる」とうろ覚えで記憶していました。ですから、あの言葉は新約聖書のどこに書かれていたのかしら？と、戸惑ってしまいました。おそらく、今私たちの読んでいる新共同訳聖書では訳も変わってしまったかもしれないと思いながらも、取りあえずはいつも愛用している聖書協会の「Jnet - ばいぶる BASIC」で検索してみようと思いました。そして、「良い贈り物」という単語で新約聖書を対象に検索したところ、ヤコブの手紙1章17節の「**良い贈り物、完全な賜物はみな、上から、光の源である御父から来るのです。御父には、移り変わりも、天体の動きにつれて生ずる陰もありません。**」という御言葉がヒットしたのです。今回ほど、ネット版の聖書の便利さに感激したことはありませんが、それと同時に、普段いかに聖書を丁寧に読んでいないかを反省させられました。けれども、探していた御言葉が見つかったことによって、今の私にとってはたとえ試練として与えられた事柄であっても、それは「上から来る良い贈り物であり、完全な賜物である」と感謝をもって受け止めることができるように思います。

さて、本日の聖書箇所まいりましょう。本来ならば、このマルコによる福音書10章27節は、10章17節から始まる「金持ちの男」という見出しで語られる話の一部ですが、段落全体を読んでいただいたほうが良かったかもしれません。しかし、この箇所を読んだときに、皆さんに話全体のストーリーをご一緒に読んでいただくよりは、「人間にできることではないが、神にはできる。神は何でもできるからだ。」という主イエスのお話

りになった言葉そのものを覚えておいていただきたいと思いましたので、そのようにしました。たとえ聖書のどこに書かれていたかということをおぼえてしまっても、うろ覚えであっても、「私たち人間にはどんなに頑張ってもできることではないが、神様にはできる。神様は何でもできるからだ。」という素晴らしい励ましの言葉がある、ということをおぼえておいていただきたいのです。それがかならず役立つときがあると思います。

ところで本日の箇所は、ある人が主イエスに走り寄って、「永遠の命を受け継ぐには、何をすればよいでしょうか」と尋ねるところから始まっています。彼は永遠の命を得るために真剣に努力していました。「殺すな、姦淫するな、盗むな、偽証するな、奪い取るな、父母を敬え」という十戒の戒めも子供の時から守ってきたと言うのです。けれども、そのことを誰かにそれでよいのだと認めてもらわなければ安心できなかったのかもしれない。そのようなときに、主イエスの様々な評判を聞いて、自分のこれまでやってきたことを認めてもらうか、あるいは、もし自分に足りないものがあればそれを教えてもらおうとして主イエスのもとに来たのでしょう。主イエスはこの人を慈しみに満ちた目で見つめながら、「あなたに欠けているものが一つある。行って持っている物を売り払い、貧しい人々に施しなさい。そうすれば、天に富を積むことになる。それから、わたしに従いなさい。」とおっしゃいました。この言葉を聞くと、彼は悲しみながら立ち去りました。主イエスがおっしゃるそのようなことはとてもできないと思ったのです。彼は沢山の財産を持っていたので、その財産を全て捨てて主イエスに従うことはとても出来なかったのです。

主イエスは更に言葉を続けて「子たちよ、神の国に入るのは、なんと難しいことか。金持ちが神の国に入るよりも、らくだが針の穴を通る方がまだ易しい」とおっしゃいました。それを聞いて、周囲にいた弟子たちはますます驚きます。主イエスは、自分が持っている何らかの財産によって永遠の命を得よう、神の国に入ろうとしている人間の思い違いを正そうとしておられたからです。「財産を持っている者」あるいは「金持ち」とは、自分が努力して善い行いに励むことによって積み上げてきた自分の正しさ、立派さという財産を拠り所とし、それによって救いを、平安や安心を得ようとしている者と言い換えることができます。誰が考えても、この金持ちが神の国に入ることの難しさとらくだが針の穴を通ることの易しさとの対比の譬えは、無理があります。けれども、そこからは、たとえ信仰者であっても神様の恵みよりも自分の正しさに依り頼んでいる限りは、信仰という財産を積み上げているにすぎないのだ、という厳しさも感じられます。この譬えが、主イエスに従ってきた弟子たちに語られていることを覚えておきたいと思います。

そして、その譬えを聞いて驚いている弟子たちに語られるのが、27節の「**人間にできることではないが、神にはできる。神は何でもできるからだ**」という御言葉です。つまり、「それでは、だれが救われるのだろうか。だれも救われないのではないか」と驚いている弟子たちやこの話を聞いている私たちに、「**人間にできることではないが**」とお語りになります。言い換えれば、「その通り、人間の力によっては誰も救われないのだ」とおっしゃるのです。けれども、主イエスはそれに続いて「**神にはできる。神は何でもできるからだ**」とおっしゃいました。ここに、私たちが神の国に入る、言い換えれば、神様の救いにあずかるただ一つの道が開かれているのです。それは、何でもできる、つまり全能の神様の力によってということです。私たちが自分の力で神の国に入ること、救いにあずかることは、らくだが針の穴を通るような不可能なことです。神様の全能の力のみが、その救いを与えることができるのです。その全能の力は主イエス・キリストにおいて現されています。キリスト教は、その力を、私たちの全ての罪を背負って十字架にかかって死んで下さった主イエスに見、さらに主イエスを復活させ、永遠の命として今もなお私たちをお招きくださる主イエスに見ているのです。私たちは、本日もこの礼拝において「我は天地の造り主、全能の・・・」と使徒信条を告白しました。その文言の中に、本日の御言葉「**人間にできることではないが、神にはできる。神は何でもできるからだ**」が踏まえられていることを深く覚えたいと思います。そして、今週1週間も全能の主なる神様により頼んで歩ませていただきたいと思います。